



横浜での起業・経営力アップに役立つ情報レター

NEWS LETTER

IDEC ニュースレター

IDEC
YOKOHAMA

No.15
秋
2015

(年4回発行)

【発行】公益財団法人横浜企業経営支援財団

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター7F
TEL.045-225-3700 FAX.045-225-3737
http://www.idec.or.jp

～ IDEC 利用者アンケート結果～

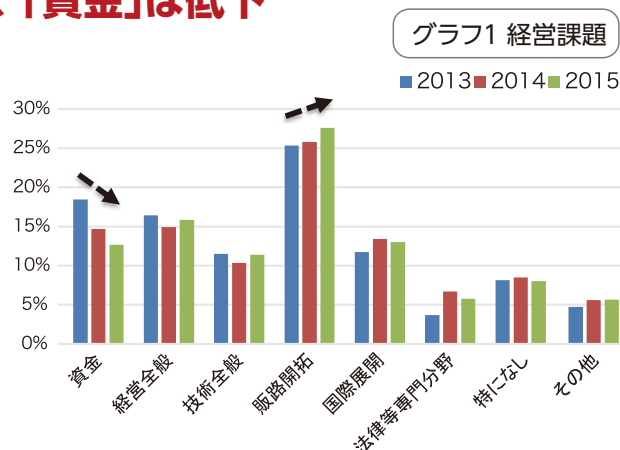
中小企業の経営課題は「販路開拓」

7月15日から同28日までの2週間、「IDEC利用者アンケート」を実施しました。期間中、914名から回答をいただきました(回収率10.0%)。このアンケートは市内企業の現状とニーズを把握し、事業の改善や新しいサービスの企画に反映するため、平成25年から実施しているもので、今回で3回目となります。

●経営課題：2年間で「販路開拓」は漸増、「資金」は低下

「経営課題」(複数回答)は、2年連続で「販路開拓」が増加し、1回目の調査と比べると2.2ポイント上昇しました。一方で、「資金」は2年連続で減少し、1回目の調査と比べると5.8ポイント低下しました(グラフ1)。

IDECでは、市内中小企業の販路開拓を支援するため、昨年からは中小企業支援コンシェルジュ事業を開始し、販売企画、広報戦略等の実践的な提案や助言を行うコンサルティング機能を強化しています。また、ものづくりコーディネート事業では、大手企業とのビジネスマッチング会や、ものづくり、環境、医療など、各種専門展示会への出展支援などにも積極的に取り組んでいます。



●「IDECの支援メニューで効果があった」は86%

IDECの支援メニューを利用したことがあると回答した方に対し、その効果の有無を聞いたところ、86%(前回82%)の方から「効果があった」という回答がありました。

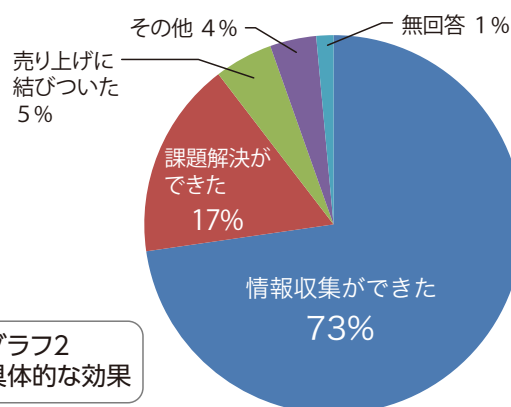
具体的な効果として「情報収集ができた」という回答が73%となっています(グラフ2)。一方で、「課題解決ができた」、「売上に結びついた」という回答も前回に比べ、それぞれ3ポイント、1ポイント増えています。

また、「具体的な効果」については、

- ▶ 課題であったホームページの構築やSEO対策が解決した。
- ▶ 開発にあたっての課題や補助金申請などでアドバイスをいただき、補助金の採択を受けることができた。
- ▶ JICA(国際協力機構)の「中小企業連携促進基礎調査」を紹介していただき、アドバイスを受けて採択に至った。

など多くの回答がありました。

このように、具体的な課題を解決するためにIDECは利用されています。昨年度から強化している「さらに一歩踏み込んだ個別企業支援」に対する期待も高くなっているのが伺えます。



IDECでは、従来の経営相談やセミナー等を通じた基礎的支援に加え、分野や個別のニーズに応じた様々な支援メニューを用意しています。

今回の結果を踏まえ、皆さまの個別の課題解決に向けて最適なサポートを提供できる支援機関となるよう、より一層職員が一丸となって努めてまいります。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

創業・企業の経営課題の解決に向けて、IDEC 職員・専門家がお手伝い

www.idec.or.jp/keiei/

ワンストップ経営相談窓口 TEL:045-225-3711 (IDEC本部) TEL:045-788-9571 (金沢相談窓口)

■ Pick Up

ビジネスプラン募集! ~横浜ビジネスグランプリ 2016 開催~

「IDECの手厚い支援は非常に心強い。グランプリ終了後も、継続して親身に対応してくれるとは考えていなかった。」と話すのはセプトアグリ(鶴見区)代表取締役、大社氏。同社は、昨年度の「横浜ビジネスグランプリ」で最優秀賞を獲得した露地水耕栽培システムなどを手がけるベンチャーです。この受賞をきっかけに、千葉県にあった事業拠点を横浜市内に移転、今後の事業拡大に向け動き出しています。

IDECは、今年も12月1日まで「横浜ビジネスグランプリ2016」のエントリーを全国から募集中です。今回で18回目を迎えるこのグランプリは、これまで多くの起業家や企業が参加し、その後の事業展開や拡大につながっています。IDECはこのグランプリを通じ、横浜で革新的な製品・サービスの提供を目指す起業家やベンチャーを発掘し、応援しています。

グランプリの最終選考者には、IDECが各種支援ノウハウをいかして、事業化を後押しするほか、「横浜市有望ビジネスプラン事業化助成金」(最大500万円)の申込資格も付与されます。この助成金の今年度交付対象者は、これまで開催したグランプリの最終選考者が6割近くを占めており、この助成金により事業資金を得られる可能性が高い傾向となっています。また、グランプリの審査過程では、事業



昨年度のグランプリ受賞者セプトアグリが開発した水耕栽培システム。生産性を高め、「稼げる農業」の実現を目指す。

プランのブラッシュアップをはじめ、第一線で活躍している経営者からの実践的なアドバイスも受けられるなど、様々なメリットがあります。

今回は、審査を勝ち抜いた最終選考者が、平成28年2月20日、ランドマークホールで公開プレゼンテーションを披露します。応募条件は、1年以内に起業予定の方、または応募内容に関わる事業に着手してから3年以内の方が対象です。皆さまの革新的なプランをお待ちしています。

横浜ビジネスグランプリの詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kigyo/ybg.php>

問 経営支援課 045-225-3714

フジケンがタイ農家支援で海外ビジネス展開 ~ JICA 中小企業連携促進基礎調査 採択 ~

プラスチック成型加工業のフジケン(鶴見区)は、小型もみすり機をタイの小規模農家向けに売り込むため、本格的な海外ビジネス調査に取り組みます。

タイでは政府による米の高値買取制度が終了し、農家が自分で販売に取り組む必要がでてきています。また、糖尿病などの成人病が深刻な社会的課題となっており、玄米などの健康食ニーズが高まりつつあります。

同社の小型もみすり機は、栄養価の高い玄米等の精米が可能で、農家の所得向上が期待できるため、JICAの「2014年度中小企業連携促進基礎調査」に採択されました。

同社は、約40年前、先代社長が羽根車式もみすり機を発明し、主要部分の特許を取得。それを基に主要部品である籾殻を取り除く樹脂製脱ぶファンを農業機械メーカーに納入し続けており、一貫してこの分野のノウハウを蓄積してきました。

こうした経験をいかして、平成25年度に横浜市の研究開発補助を利用し、今回のタイの農家向けの原型となる「小型もみすり機」の開発に成功しました。新開発の機種は、脱ぶファンの方式を主流の「垂直式」から「水平式」に変更することにより、従来型の4分の1程度の小型化を実現し、さらに、胚芽を残して玄米生産の歩留まりを向上さ



「海外展開は大きな挑戦」と藤田社長(左)。改良を重ねてついに完成

せたことなどが特長です。

製品開発後、自社でもタイの市場調査を行っていましたが、「本格的に取り組みたい」とものづくりコーディネーターに相談、そこでIDECはJICAの同事業を紹介、提案書作成などを支援し、今回の採択に至りました。

この調査によって同社の製品や技術が、タイ市場に導入され、農家の収入向上に貢献するだけでなく、タイの人々の健康食ニーズにも応えていくことが期待されます。

IDECは、市内中小企業の皆さまの海外展開の関する様々な支援を行っています。まずはご相談ください。

国際ビジネス支援の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kaigai/>

問 国際ビジネス支援部 045-225-3730

■ Pick Up

音楽の楽しさを伝えるアイデア商品 ～ふえピタ®～

「子どものリコーダー嫌いをなんとかしてあげたい…」そんな思いから画期的な商品が誕生しました。

リコーダー(たて笛)をうまく吹くためには穴をおさえる指の力が必要です。力の弱い子どもなどには難しく、苦手とする子どもも少なくありません。アイデアパーク(Idea Park(中区)の北村さんは子どもがリコーダーを楽しく吹くために、自分のアイデアの商品化をIDECの女性起業家支援チームに相談しました。相談員に創業補助金を紹介され、アイデアのブラッシュアップ支援も受け応募したところ無事採択されました。

商品化した「ふえピタ」は、弾力性のある樹脂でできた厚めのシールで、リコーダーの穴に貼ることによって子どもでもしっかりと押さえることができます。その結果、演奏に集中できるようになり、成功体験の積み重ねが自信につながることを

北村さんは願っています。

商品化にあたっては、パッケージのイラストやパンフレットの制作も自身が会員でもある女性専用スタートアップオフィス「F-SUSよこはま」のネットワークを活用しました。

現在、この「ふえピタ」を多くの人に広め使ってもらうための準備を進めています。IDECは今後の課題である販路開拓について、引き続きサポートしていきます。



「『ふえピタ』はリコーダーを吹くのが楽しくなる商品です」と北村さん

女性起業家支援チームの詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kigyowoman/support.php>

問 経営支援課 045-225-3707

医療機器分野をビジネスチャンスに!

IDECの支援で医療機器分野に進出する中小企業が増えていきます。

「MEDTEC Japan」は医療機器の設計・製造に関するアジア最大の展示会です。今年は4月22日～24日、東京ビックサイトで開催され、3万2千人を超える来場者で賑わいました。IDECは「横浜パピリオン」を出展し、市内ものづくり・IT企業16社を支援しました。

横浜パピリオンには3日間で計1200名を超える来場者が訪れ、専門展示会ならではの活発な商談が繰り広げられました。今回初出展したサンケイエンジニアリング(都筑区)は、異なる金属同士を接合するという独自技術をPRし、100件を超える商談を行った結果、大手医療機器メーカー数社から試作開発の受注を獲得しました。

展示会出展だけでなく、すでに医療機器分野に進出している企業の新技術・新製品の開発や販路拡大を支援するため、IDECは6月に「横浜医療機器ビジネス研究会」をスタートさせました。産・官・学・金の30団体が参画し、医療現場とのマッチングや大手医療機器メーカーとの商談、他地域とのネットワークづくりを進めています。関心のある方は、お気軽にご連絡ください。



横浜医療機器ビジネス研究会の詳細は、技術支援課まで

問 技術支援課 045-225-3733

専門家Column

インキュベーション施設の支援がさらに充実!

インキュベーションマネージャー・野毛健弘

IDECのインキュベーション施設は、鶴見区の横浜市産学共同研究センターと横浜新技術創造館、金沢区の横浜金沢ハイテクセンター・テクノコアと市内に3か所あり、8月末現在で60社が入居しています。

これらの施設の起業支援機能をさらに充実させるため、6月からインキュベーションマネージャー(以下IM)を2人体制に拡充しました。

IMが相談窓口となり、入居企業の新たな研究開発に必要な補助金・助成金や出資のご相談、専門家や連携先のご紹介など、様々な情報を提供しています。

施設では年に2回、入居する企業を対

象に「入居者交流会」を開催しています。8月の交流会では、各社が事業内容のプレゼンを行い、他社の製品・技術を知る機会となり、企業間のマッチング(商談)につながりました。

入居企業の中には、革新的な新製品開発に成功し、マスコミにたびたび取り上げられる上場企業や、ベンチャーキャピタルからの資金調達に成功し、上場を目指す企業もあります。

これからも入居企業の皆さまが高いパフォーマンスを発揮できるよう、日常的な支援からネットワークづくりまで、IDECの機能をフル活用し、全力で支援していきます!



新任IMの野毛です。皆さまの夢の実現に向けて全力でサポートします!

■ 各種イベントのお知らせ

2015.10～12

イベント名 / 会場	日程 / 時間
シニア創業セミナー / IDEC大会議室 創業を実現したシニア起業家によるパネルディスカッションと個別相談	10月10日(土) 13:00～17:00
インドネシアサポートデスク報告会 / IDEC大会議室 労働法関連の規定変更から見る外資企業への対応について、直近の情報を提供します。	10月20日(火) 14:00～16:30
(横浜市工業技術支援センター共催)3Dプリンタールームオープニングセミナー / 横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア1階会議室 3Dプリンタールームのご紹介のほか、3Dプリンターの活用に関するポイントを解説します。	10月27日(火) 14:00～17:15
～社長の“想い”を売上げにつなげる～商品・サービスの上手な売り方 / IDEC大会議室 3ステップで売れるようになる中小企業のための上手な売り方を解説します。	11月10日(火) 18:30～20:30
【全4回】創業に必要な数字の読み方・いかし方 / IDEC大会議室 企業経営に役立つ財務会計の知識をわかりやすく集中特訓していきます。	11月17日(火)、11月19日(木) 11月24日(火)、11月26日(木) 18:30～20:30
東海大学産学連携フォーラム2015 / 情文ホール 産学連携の事例紹介、研究成果発表、情報交換会を予定しています。	12月16日(水) 13:00～18:30

上記イベントはほんの一部です。詳しくはホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

IDEC 横浜

検索

オフィスに！ ラボに！
横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア

入居者
募集中

- 事業拡大に広がる余裕の広さ！
・ 65㎡～126㎡、多様なスペース
- 研究・開発・連携に好立地！
・ ウェット仕様、実験レベル「P2」対応
- 専門家の無料アドバイス！
・ 経営相談・技術相談・海外展開等支援

- アクセス
金沢シーサイドライン
「産業振興センター駅」から徒歩1分
首都高速湾岸線「幸浦ランプ」2分、
横浜横須賀道路「並木IC」4分
金沢区福浦 1-1-1
Tel.045-788-9570



その他の施設の詳細はIDECホームページ <http://www.idec.or.jp/> 「施設案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご確認ください。詳細は、施設経営部 問 045-225-3710 まで。

■ IDEC 上海事務所レポート「現地企業と連携し中国の建材市場を開拓」

上海事務所 副所長 岩田 健

建築建材商社のミハマ通商(金沢区)は6月27日、建築壁材製造のワンウィル(中区)と共同で広東省珠海市にショールームを開設しました。

ミハマ通商は1967年の設立以来、チークやカリンなどの上質な無垢の床材を扱っており、近年の健康志向の高まりともあいまって日本国内では定評を得ています。山本路子社長は無垢材を日本だけでなく中国にも紹介したいと望んでいました。

同社の床材は、ワンウィルの珪藻土壁材とともに高い吸湿性を持つため、珠海市の

ような湿度が高い地域に適しています。また、珠海市は来年開通する港珠澳大橋で香港への新たな窓口として発展が見込まれることなどから、1号店の立地として最適と判断しました。今年度中に広州市に2千㎡規模の2号店をオープンする予定です。

実際に無垢材に触れられる機会として、11月に開催される中国(上海)国際工業博覧会のIDEC横浜ブースにも出展します。現地企業と協力して3年後には中国全土で300か所のショールーム開設を計画しています。



日中多くの関係者を招き開式を行った

中国での販路開拓等についてのご相談等は上海事務所へ
yokohama@idec-sh.com

編集
後記

本号からは、さらに読みやすい紙面にするため表や写真を増やし、構成も大幅に変更しました。内容面でも「専門家コラム」の掲載を開始しました。第1回目となる今回は、野毛 IM の登場です。野毛 IM は、入居企業に寄り添う相談役として、とても頼られる存在です！今後は、窓口相談などで活躍する専門家の方々から寄稿していただく予定です。

IDEC を身近に感じていただけるよう、今後も紙面の編集に努めてまいります。本紙について、ご意見、ご感想をお待ちしています。